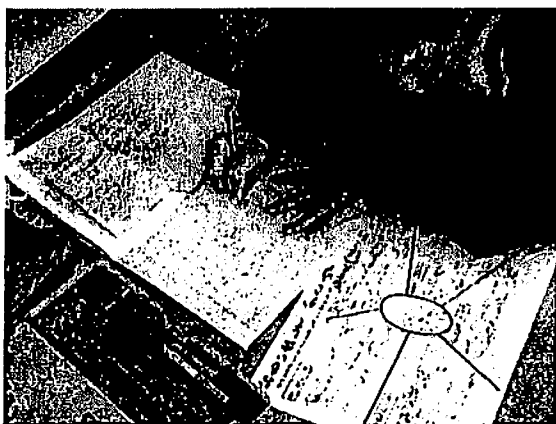


国語科「書くこと」分科会 提案資料

研究主題

自分の思いや考えを豊かに表現し、学びを深める児童の育成
～書く力を育てるための授業づくりを通して～



第1部会 佐倉市立井野小学校
御厨 江里子
菊池 雄介

1. 研究主題

自分の思いや考えを豊かに表現し、学びを深める児童の育成
～書く力を育てるための授業づくりを通して～

2. 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領から

29年度に告示された新学習指導要領改訂の方向性「新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実とある。具体的に以下の3つが挙げられた。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること
- (2) 思考力, 判断力, 表現力等を育成すること
- (3) 学びに向かう力, 人間性等をかん養すること

これらの3つを学校教育全体並びに各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら, 教育活動の充実を図ることが求められている。

国語科の教科目標としては, 「言葉による見方・考え方を働かせ, 言語活動を通して, 国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とあり, 上記の「知識及び技能」, 「思考力, 判断力, 表現力」, 「学びに向かう力, 人間性等」を具体的に表した3つの点を挙げている。

- (1) 日常生活に必要な国語について, その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め, 思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに, 言語感覚を養い, 国語の大切さを自覚し, 国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

以上に挙げられていることから, 新学習指導要領で大切にされている「知識及び技能」, 「思考力, 判断力, 表現力」, 「学びに向かう力, 人間性等」を柱として, 主体的・対話的で深い学びとなるように授業を計画していくことが必要ということがわかる。

(2) 学校教育目標から

本校の学校目標は, 「心明るく, 元気よく, 力を合わせて学びゆく子の育成～一人一人が輝く学校～」である。目指す児童像は,

- | | |
|---------------|---|
| ① 力を合わせて学びゆく子 | ・・・互いのよさを認め合い, 進んで学び, 豊かに表現しようとする子 (学ぶ意欲, 表現力の育成) |
| ② 心明るい子 | ・・・自分も友達も大切にし, 思いやりと優しさのある子 (コミュニケーション能力の育成) |
| ③ 元気な子 | ・・・運動に親しみ, 心身ともに元気な子 (自己の健康への関心を育む) |

本校では、「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童を育成していくことで、一人一人が輝くことができ、充実した学校生活を送れるのではないかと考えた。学校生活は、これから目まぐるしく変化していく社会で生活していく上での基礎となる。様々な課題に直面したときに、周りの人々と協力してそれに対してどのように対応していくのかを考えられる力や、困難にくじけない強い心を育てていくことを目指している。

(3) 児童の実態から

本校では、2年間にわたって国語科の研修を行ってきた。昨年度は伝統的な言語文化いわゆる古典的な学習や言語事項を中心とした学習、一昨年度は単元計画及び学習形態の工夫を取り入れた授業実践と取り組んだ。年間を通して行うことで、古典文学に触れたり、校内で取り組んでいる長割俳句に意欲的に取り組む児童が増えたりしていることがわかった。学年によっては、学習した言葉を使って文章を書いたり、俳句を詠んだり意識して取り組む児童もいる。

児童に、「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域におけるアンケートを昨年度末に実施した。結果から一番苦手な領域として「書く」が3年生以上すべての学年で挙げられ、割合としても約半数に及んだ。理由としては「テーマが思いつかない」「内容や言葉が思いつかない」「うまく表現できない」ということだった。また、学年が上がるにつれて分量が増えたり、内容が難化していったりすることが原因とも考える。

以上、新学習指導要領や課題及び児童アンケートから、深い学びを実現する児童の育成を目指して研究主題を設定した。

3. 研究仮説

仮説1

書くことを明確にし、学習の見通しをもたせれば、児童が思いや考えを適切に表現することができるであろう。

<手立て>

授業での取り組み

- ① 単元計画の工夫
- ② 教師見本の提示
- ③ イメージマップの活用

学校としての取り組み

- ① 長割俳句
- ② 学年掲示板

仮説2

共有の場を設定したり、振り返りを積み重ねたりすることで、児童の学びを深めることができるであろう。

<手立て>

- ① 共有の場の工夫

※共有…文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけること。互いの考えを認め、比較して違いに気づき、自分の考えを広げていくこと。

- ② 振り返りシートの活用

- 1 単元名 『おもい出のアルバム』を書いて ともだちやいえの人につたえよう
 学習材 おもい出して かこう

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、1年生の書くことのまとめとして、経験したことを一つのまとまりの文章にまとめていく学習活動である。

これは、学習指導要領第1学年及び第2学年の

「B書くこと」の指導事項

- イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
 エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。

を受けて設定した。

本教材は、書く単元としての1年生最後の単元となる。教科書に載っている児童文例から構成の仕方を学び、自分の経験したことや見たことの中から書きたいことを選び、メモをもとに長文を書くものである。構成意識を育むために、文例のやまざきさんが書いた「いもうととおふろに入った」を読むことで、様々な観点が入っていると文が詳しくなることやメモを順序よく並び替えると分かりやすくなることに気付かせていく。文章を書き終えたら、声に出して読ませることで、間違いを確認する習慣を身に付けさせる。そして、クラスで交流をして、良いところを伝え合うことで、書いて良かったという実感をもたせられると考え、本単元を設定した。

(2) 児童の実態 (男子16名, 女子15名, 計31名)

実施日 12月21日

(意識調査)

- (1) 文を書く時に、書きたいことがすぐに思いつきますか。
 はい・・・11名(35%) どちらかといえばはい・・・6名(20%)
 どちらかといえばいいえ・・・10名(32%) いいえ・・・4名(13%)
- (2) 「はじめ・なか・おわり」に気を付けて、分かりやすく文を書くことができますか。
 はい・・・21名(68%) どちらかといえばはい・・・3名(10%)
 どちらかといえばいいえ・・・5名(16%) いいえ・・・2名(6%)
- (3) 書いた文を声に出して読み直し、正しく直すことができますか。
 はい・・・16名(52%) どちらかといえばはい・・・10名(32%)
 どちらかといえばいいえ・・・3名(10%) いいえ・・・2名(6%)

本学級の児童はこれまでに、メモをもとに文章を書く学習を経験している。また、絵日記や作文も日常的に取り組んでいる。「見つけたことをしらせよう」では、見つけたものの色や形、手触りなど項目に分けてメモを書き、それをもとに文章を書く学習をした。どの児童も、教科書に載っている教材文を真似ながら、文章を書くことができた。この時は、書く順序が決められていたため、自分で書く順序を考えるのは今回が初めてとなる。したことを中心に書いているが、順序が合っていないために様子がよく分からない文になっている児童がいる。「見たこと」や会話文である「話したこと」「聞いたこと」が入っていない児童も多く見られる。

児童の実態調査から、自分の思ったことや考えたことを書くことが好きな児童が過半数を占めていた。理由から考えると、自分の思いや考えを身近な人に伝えたいという相手意識をしっかりともっている児童は書くことが好きだと分かる。その反面、文章を書くことを苦手とする児童は、書き方が分からないために意欲ももつことができていないと考える。また、書きたいことがすぐに思いつくかどうかの問いでは、回答が半々に分かれた。学級の約半数の児童が、書きたいテーマを見つけることに苦手意識をもっていることがわかる。

このことから、意欲的に自分の思いや考えを表現するためには、相手や目的意識をもたせ、文章構成を理解させることが課題であると考えられる。

(3) 指導観

単元観及び児童の実態から、本単元では、次のような点に重点をおいて指導したいと考えた。

まず、「だれに」「何のために」書くのか、相手と目的意識をもつことで学習意欲を高めていきたい。そこで、自分達で書いた文章を「思い出のアルバム」と称し、それを友達や家の人に読んでもらうことを単元のゴールとして設定する。

次に、順序よく文章を書くために、文章構成を理解する学習をする。児童文例の「いもうととおふろに入った」から、メモは「見たこと」「したこと」「はなしたこと」「きいたこと」「おもったこと」の5つの観点で書くとよいことに気付かせる。書き方を理解した後に、クラス全員が共通で体験したこととして「校外学習」を題材にして、メモの書き方を練習する。メモは「見たこと」「したこと」を始めに考え、あとの3つの観点を付け足していくようにすると、順序を決めるときにわかりやすくなる。メモをたくさん書くと、文が詳しくなる。このようなことも伝えていく。メモは付箋紙を活用することで、並び替えをしやすいうようにする。文章を書く時には、必ずメモをもとに書くようにさせる。原稿用紙の使い方は、掲示しておくことで常に振り返ることができるようにしておく。共通の題材で文を書く練習をした後に、第二弾として自分達が選んだ題材で同じように取り組んでいく。題材を決める時間は十分に取りたい。

対話的な学習ができるように、毎時間めあてに対する自己の振り返りの時間を確保する。学習課題を達成した喜びや次の学習内容を確認することで、次への学習の意欲にもつながると考える。また、ペア学習も取り入れていきたい。題材を決めるための取材の時間では、出来事の詳細が思い出せるように全体で話し合う場を設ける。構成の検討の場面では、書いたメモが正しい順序に並び替えられているか確認し合う。最後の共有の場面では、観点を示すことで内容面と書き方に着目して良い所を見つけられるようにさせたい。

(4) 仮説との関連

仮説1との関連

書くことを明確にし、学習の見通しをもたせれば、児童が自分の思いや考えを適切に表現することができるであろう。

書きたいことを決定させるために、取材の時間を多く設ける。イメージマップも活用し、書きたいことを思いつく限り書き出していく。それでも思いつかない児童には、これまでの学校行事を思い出させたり、友達の意見を参考にしたりして、題材を決定させる。

次に、教師見本を提示し、メモが文章のどこに反映されているか確認し、メモと文章を対応させる操作を通して文章構成の見通しをもたせていきたい。一度、学級全体で共通の題材で練習した後、個人で決めた題材で取り組ませる。メモを順番に並び替えるのは初めての経験になるため、「したこと」「見たこと」「はなしたこと」「きいたこと」「おもったこと」の順序が正しく表されているか共有の場を設定し、丁寧に指導したい。文章を書く時には、メモとは違って敬体になっていることも確認する。

仮説2との関連

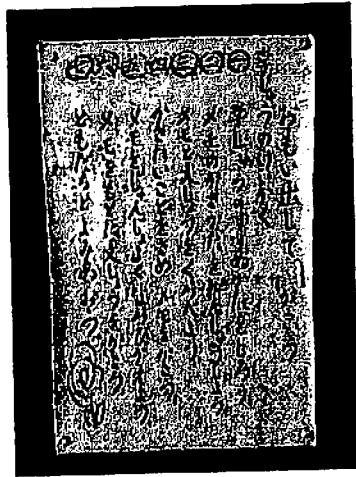
共有の場を設定したり、振り返りを積み重ねたりすることで、児童の学びを深めることができるであろう。


単元の始めに、「思い出のアルバムを書いて友達や家の人に伝えよう」と単元のゴールを設定し、目的と相手意識をもたせる。学習が進むにつれて、何のために書くのかを意識付けさせるためにも、常に単元のゴールを確認することで、意欲を継続させたい。また、毎時間、学習の終末で振り返りの場を設けることで、何ができたか、何が書けなかったかをはっきりさせる。うまくいかなかったことに関しては、次時の課題にさせ、学習につながりをもたせたい。取材、構成を検討、文章を読み合う場面では、2人組で見合うことで、自分では気付かなかったことに気付いたり、良いところを見つけて伝え合ったりして、見方や考え方が広がるようにする。

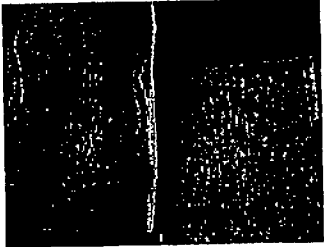
3 単元の目標

- 経験したことや見たことを思い出し、文章を書こうとする。 (学びに向かう力、人間性等)
- 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うことができる。 (知識及び技能)
- 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)

4 指導計画（13時間扱い）

過程	時配	学習内容と学習活動	主な指導（○）・評価規準（◎）
第一次	1	<p>・「思い出のアルバム」を作ることを知り、学習の見通しをもつ。</p>  <div data-bbox="351 831 895 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「思い出のアルバム」をかいて、と もだちやいえの人につたえよう。</p> </div> <p>・児童例文を読み、感じたことを話し合う。</p> <p>・一年間を振り返って、心に残ったことを発表する。</p>	<p>○児童例文を読み、具体的なゴールのイメージをさせるとともに、目的や相手意識をもたせる。</p> <p>◎書きたいことを考えながら、意欲的に活動に取り組もうとしている。 （学び・人等） 【発言、態度】</p> <p>○聞く観点を示して、範読を聞かせることで、表現方法や様々な観点が入っていることに気付かせる。</p> <p>○書きたいことを決められるように、予告しておく。</p>
第二次	1	<div data-bbox="362 1211 911 1256" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>メモの書き方を知ろう。</p> </div> <p>・例文から「したこと」「見たこと」「はなしたこと」「きいたこと」「おもったこと」の5観点で書かれていることに気付く。</p> <p>・クラス共通の話題で、メモを書く練習をする。</p>	<p>○話し合いを通して出来事を詳しく思い出し、メモを書かせる。</p> <p>○常体で書くことを確認する。</p> <p>○「したこと」と「見たこと」から書かせることで、後に順番を決める時に分かりやすいようにする。</p> <p>◎観点に分けてメモを書くことを理解している。 （思・判・表等）【発言、態度】</p>
	2	<div data-bbox="362 1637 911 1742" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>メモが文しょうのどこにかかっているかしらべよう。</p> </div> <p>・教科書の例文を読み、メモと文章を読み比べる。</p> <p>・見つけたことをメモに書いて文章と同じように並べる。</p>	<p>○観点ごとに教科書にサイドラインを引かせることで、「したこと」がたくさん書かれていることに気付かせる。</p> <p>○教科書にあるメモを印刷したものを使って並び替えることで、メモをたくさん書くと文章が詳しくなることに気付かせる。</p>

			<p>◎例文を読み、文章のどこにメモが生かされているかを見つけている。 (思・判・表等) 【サイドライン・メモ用紙】</p>
1	<p>かきたいことをきめ、メモをかこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がしたことや見たことの中で、書きたいことを探す。 ・観点にそってメモを書く。 (観点) <p>書きたいことが決まったか。 5観点ごとにメモが書けたか。 文末が常体になっているか。</p>		<p>○イメージマップを活用し、自分が経験したことを想起させる。</p> <p>○メモがなかなか書けない児童には、観点を示した掲示物をヒントにさせたり、友達と交流させて思い出させたりする。</p> <p>◎自分が経験したことや見たことを思い出し、書きたいことを選ぶことができる。 (思・判・表等) 【ワークシート・発言】</p>
2 本時 6 / 13	<p>メモをならびかえて、文しょうをかくじゅんばんをきめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを観点ごとに分け、出来事の順序に並べる。 ・メモを読み返し、書く順序がよいかを確認する。 (観点) <p>出来事の順番になっているか。 メモの内容で文章が書けるか。</p>		<p>○順序が入れ替えやすいように、メモは付箋紙を使う。</p> <p>○少ない観点のものは、付け足してもよいことを伝える。</p> <p>○順序が決まったら、互いに読み合うことで確認し合えるようにする。</p> <p>◎自分が書いたメモの順序を理解し、書く順序を決めることができる。 (思・判・表等) 【メモ、ワークシート】</p>
5	<p>メモをもとに文をかこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモをもとに文章を書く。 ・書いた文章を読み直し、間違いを正す。 ・清書をする。 (観点) <p>字の間違いはないか。 句読点が適切についているか。 小さく書く字が正しく書けているか。 は・を・へが正しく使えているか。 文末が敬体になっているか。</p>		<p>○原稿用紙の使い方を掲示しておく、常に確認できるようにしておく。</p> <p>○読み直す時には、必ず声に出して読ませるようにする。</p> <p>○観点を持って確認できるように、チェックシートを使う。</p> <p>◎メモの順序や観点に沿って文章を書き、正しく書けているか確かめることができる。 (思・表・判等) 【文章、チェックシート】</p>

第三次	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> かいた文をよみあい、よいところをつたえあおう。 </div>	○話し合いの観点（内容面、書き方）について示してから話し合わせる。
		・発表の仕方を確認する。 ・ペアで読み合い、感想を伝え合う。 ・作品を一冊の「思い出のアルバム」にする。	◎書いた文章を読み合い、感想を述べることができる。
			（思・表・判等） 【発言、態度】
		（観点） 友達のよさ（内容面、書き方）を見つけられたか。	

5 本時の指導（6 / 13）

（1） 目標

○書きたい出来事を思い出しながら、文章に書く順番を決めようとする。


（学びに向かう力・人間性等）

○メモを読み直し、文章に書く順番を決めることができる。

（知識及び技能）

（2） 展開

時配	主な学習活動	指導・支援（○） 評価（◎） 仮説との関連（※）	資料
5	1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○「思い出のアルバムを作って、友達や家の人に読んでもらう。」という最終ゴールを再確認する。 ※「思い出のアルバム」の完成イメージ図を見せて学習の目的を意識させる。 （仮説2）	学習計画 イメージ図
20	2 メモを出来事の順序に並べる。 （1）観点ごとに分ける。 ・「したこと」は沢山書いたな。 （2）「見たこと」「したこと」のメモを出来事の順序に分ける。 ・「見たこと」が少ないから、もう少し書こう。	<div data-bbox="431 1534 1113 1624" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> メモをならびかえて、かくじゅんぱんをきめよう。 </div> ○「見たこと」と「したこと」のメモが順番を決められるくらいに書かれているか、机間指導をして把握する。 ○メモが少ない場合は、書き足すように伝える。	メモ（付箋紙） ワークシート

<p>15</p>	<p>(3) 「話したこと」「聞いたこと」「思ったこと」のメモを付け加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この「思ったこと」は〇〇した時のことだから、ここに入るかな。 <p>3 並べたメモを互いに読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい順番に並べられているね。 ・メモがたくさんあって、長い文章が書けそうだね。 ・ここを入れ替えた方が分かりやすいと思うよ。 	<p>○「見たこと」と「したこと」を並び替えてから、「話したこと」「聞いたこと」「思ったこと」のメモを付け加えるようにさせる。</p> <p>◎書きたい出来事を思い出しながら、文章に書く順番を決めようとしている。 (学びに向かう力・人間性等)【観察】</p> <p>○読み合う前に、観点「出来事の順番になっているか。」を確認する。</p> <p>○隣の席と2人組で見合うようにさせる。</p> <p>○読み合っている中で直してもよいことを知らせる。</p> <p>◎メモを読み直し、文章に書く順番を決めることができる。 (知識及び技能)【ワークシート】</p>	
<p>5</p>	<p>4 本時を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来事の順序に沿って並び替えることができた。 ・〇〇さんのアドバイスのお陰で、メモを分かりやすく並べることができた。 	<p>○学習を振り返って、「わかったこと」「できるようになったこと」友達との関わりの中で自分が変容したことを発表できるようにする。</p> <p>○頑張りを認め、次時の学習への意欲につなげる。</p>	


(3) 板書計画

☆ふりかえり

◎となりの人と見あう。
できごとのじゅんばんになっているかな。

「はなしたこと」
「きいたこと」
「おもったこと」

◎メモをならべる。
「したこと」
「見たこと」



モデル文

おもい出して かこう

メモをならびかえて、かくじゅんばんをきめよう。

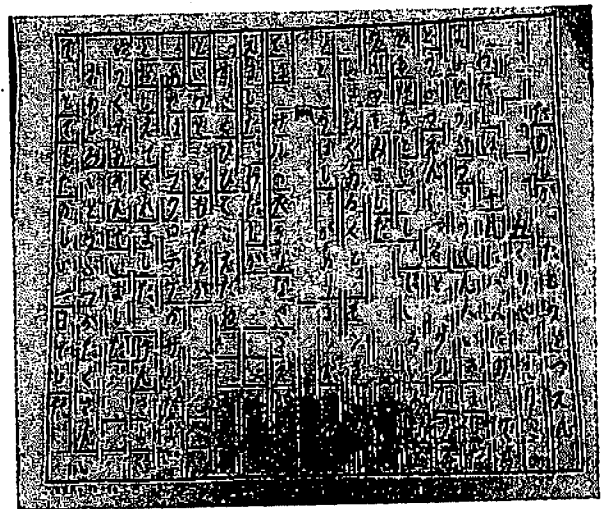
活動の実践

書きたいことを明確にする<仮説1>

○目的・相手意識をもたせる

(～何のために、誰に)

一年間で楽しかったことを一つ選んで「思い出ブック」を作ろうと話し、教師が作った見本を児童に見せた。そのことで、この学習の最終的なゴールのイメージを具体的にもたせることができた。そして、「思い出ブック」が完成したら誰に読んでもらいたいかと尋ねた。児童からは「お母さん」「友達」などと返ってきた。この一年間で楽しかったことを文章に書いて、家の人や友達に読んでもらうために、これから学習するという意識を付けさせることができた。



【教師見本】

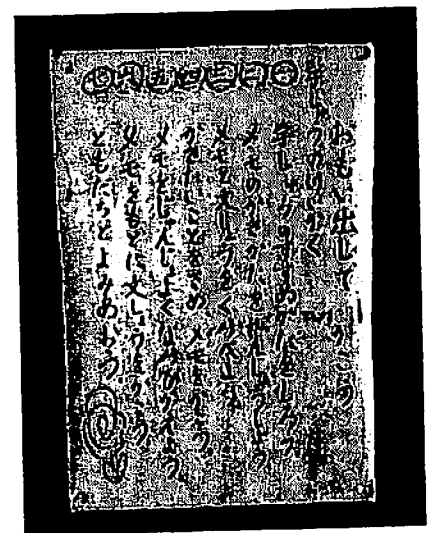
○書きたいことを見つけるために、題材の収集と時間の確保

単元のゴールを確認してから、各自の題材を決めるまでに考える時間をとった。一年間の出来事を学級全体で思い出したり、書きたいことが決まった児童の意見を参考にしたりして、一人一つ題材を決定した。

学習の見通しをもたせる<仮説1>

○学習計画を掲示する

学習の始めには今日学習することを確認し、学習の終わりには次の時間の予告として、常に児童の目の触れる所に掲示し活用した。学習がどのくらい進んでいて、あと何時間でゴールに到達するか目安にもなった。また、学習を終えるごとに、丸をつけることで児童に達成感が湧いたようだ。

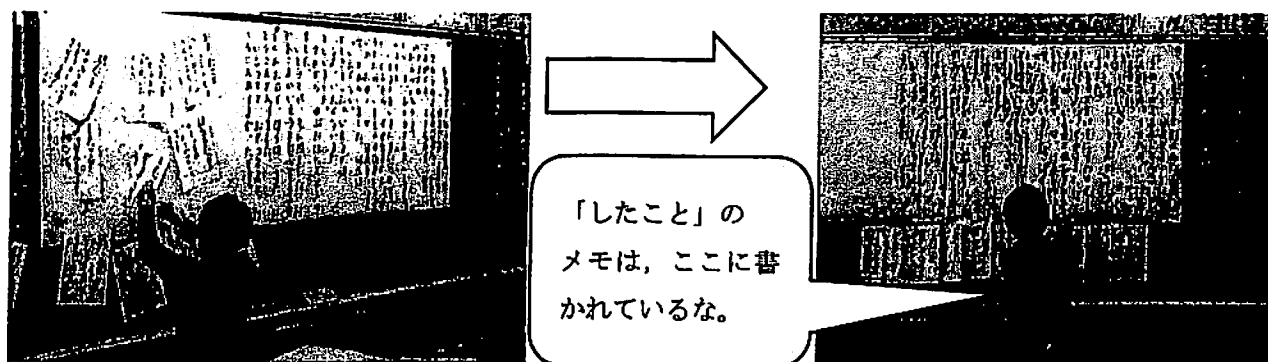


【単元計画（教室に掲示）】

○文章構成の理解

教材文を使って、文章構成がどうなっているかを掴む活動をした。

「したこと」「見たこと」「はなしたこと」「きいたこと」「おもったこと」のメモが文章のどこに書かれているか照らし合わせた。このことで、メモが全て本文に入っていることや出来事の順番になっていること、思ったことは最後に書くことに気付くことができた。また、メモをもとに文章を書くことが大切であることもおさえた。



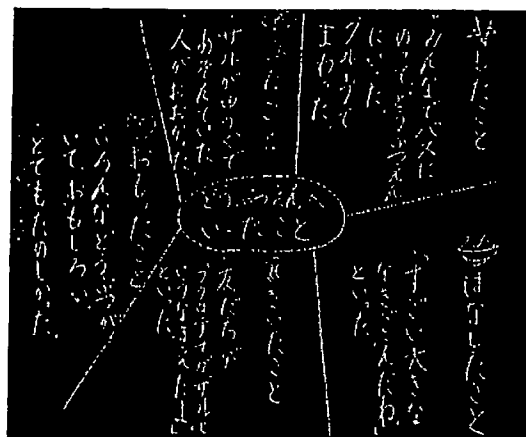
【ランダムに置かれたメモを文章に順序に合わせて、メモを並び替える活動】

○共通の題材で書く

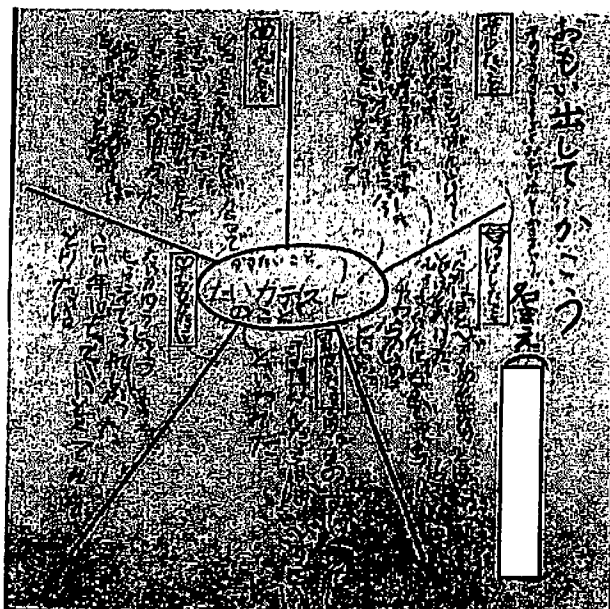
個人のテーマで取り組む前に、まず学級全体で共に経験したことの中から、同じテーマで文章を書く活動をした。「校外学習の千葉市動物公園へ行ったこと」を題材に取り上げ、みんなで出来事を思い出す話し合いをしながら、メモを作りそれをもとに文章を書いた。メモの書き方や文章構成の仕方、原稿用紙の使い方を丁寧に確認した。児童は、教師と一緒に書く練習をすることで、文章を書くまでの学習過程が具体的にイメージすることができた。

○イメージマップを使って考える

書きたいことがよく伝わるように、「したこと」「見たこと」「はなしたこと」「きいたこと」「おもったこと」の5観点に沿って思い出させた。あまり思い出せない児童には、教師が題材にまつわる出来事を話したり、周りの友達と会話をしたりした。箇条書きで書くことで、内容が足りない所が一目でわかる。



【教師が示した書き方例】

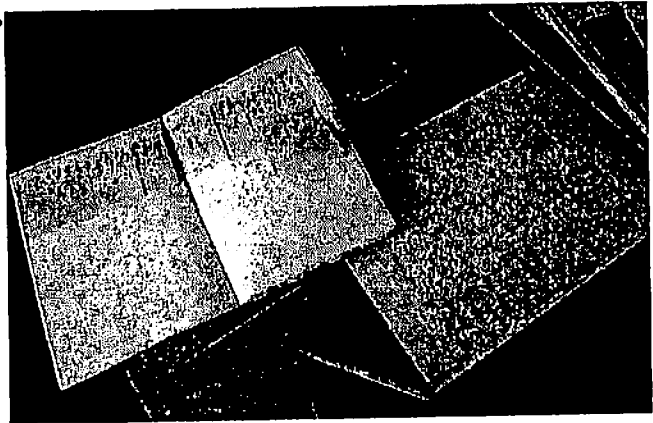


【児童が書いたワークシート】

○付箋紙を使って文章構成を考える

色ごとに使い分けた付箋を並び替える操作をし、どの順序で文章を書けばよいのかを考えさせた。まず、「したこと」と「見たこと」を先に並べる。次に、「話したこと」と「聞いたこと」がどの場面の時のことか思い出し、黄色の付箋紙の間に入れる。最後に、「思ったこと」は教材文からも文章の終わりに書いてあるように、一番後ろに貼らせた。

黄色...したこと、見たこと
青色...話したこと、聞いたこと
ピンク...思ったこと



【児童が並び替えたメモ】

共有の場の設定<仮説2>

○構成の場面で互いに見合う

個人で付箋を並び替える作業を行った後に、隣の席の人に見てもらう。出来事の順番になっているか、メモを付け足した方がいいかなどの観点を与えてから見合うことで、アドバイスをしやすくなった。

この付箋は順番を入れ替えたらどうかな？

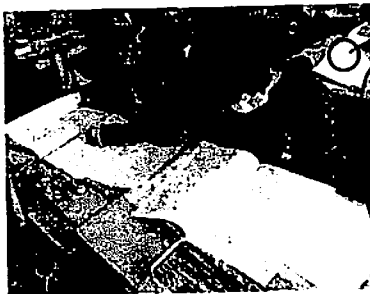


本当だ。その方が分かりやすいね。

【2人組で見合っている場面】

○完成した作品を読み、友達のよいところを伝え合う

友達の作品を読み、書き方や内容の面で良かったことをカードに書き、友達に渡した。もらったカードを見ることで、「頑張って書いて良かった。」「順序よく書けていると褒められて嬉しいな。」という満足感や達成感が得られる。



〇〇さんは、順序よく書けているなあ。



上手に書けていたよ。



【友達の作品を読んでいる場面】

【カードを渡している場面】

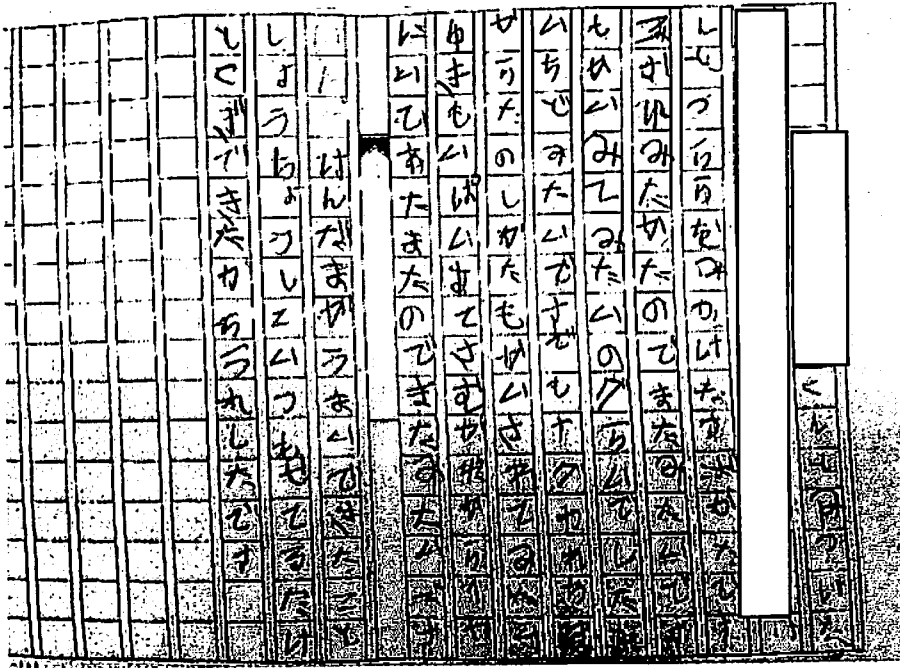
○振り返り

毎時間の終末に振り返る時間を数分間とった。振り返りカードを使うことで、学習課題を達成することができたかを自己評価をするとともに、次時の学習につなげる課題設定をした。振り返りカードは一つの単元で一枚とし、ゴールまでの学習過程もわかるようにする。

三二	三二	二九	二八	二五	二三	二八	日記
○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。	○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。	○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。	○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。	○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。	○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。	○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。	日記
てと文	てと文	てと文	てと文	てと文	てと文	てと文	

振り返りカード
 ○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。
 ○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。
 ○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。
 ○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。
 ○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。
 ○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。
 ○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。
 ○この単元の文しょうをよんで、よむところを見つけて書いた。

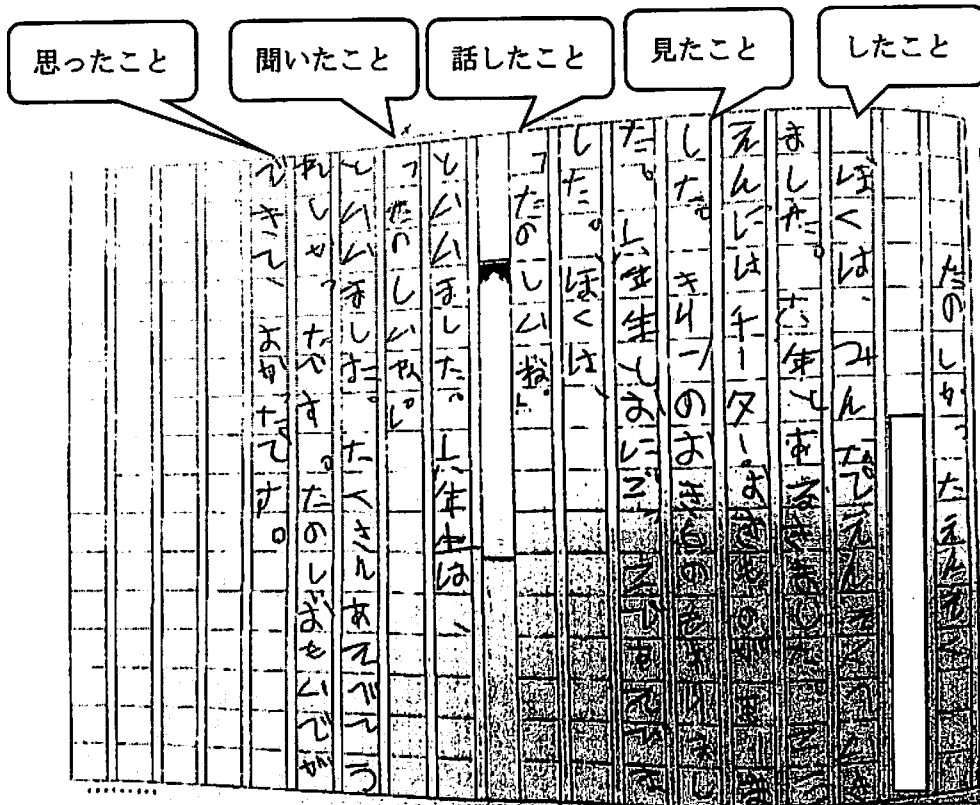
【A児の変容】(国語が苦手な児童)



【意識調査】

実態調査では、「文を書く時に、書きたいことがすぐに思いつかない」と答えていた。理由は、書き方が難しいからということだった。作文からも、拗音や促音が抜けたり、主述の関係が理解できてなかったりして、正しい表記が困難であることがわかる。

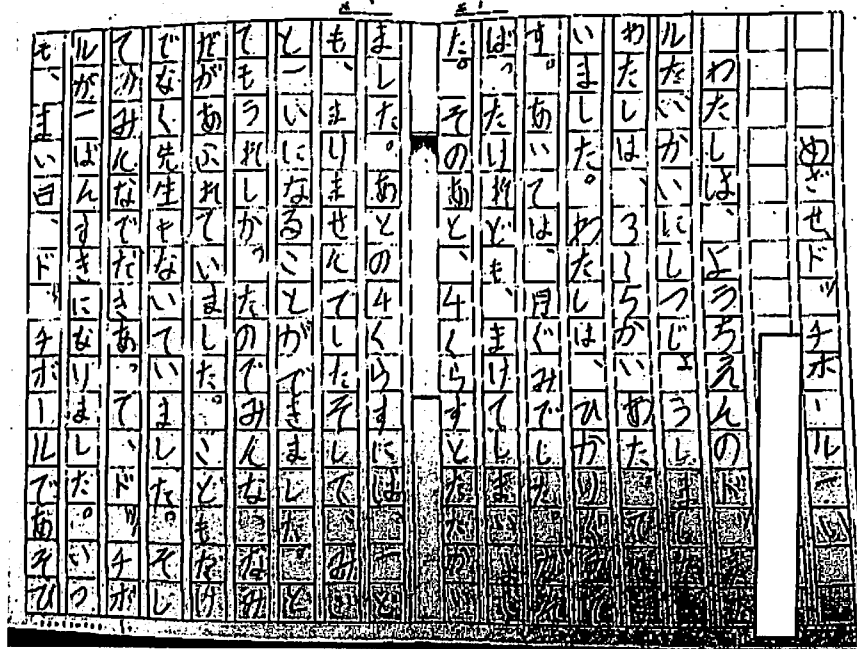
【単元に入る前の作文】



【単元最後に書いた作文】

遠足に行った時のことを思い出して、「したこと」「見たこと」「はなしたこと」「きいたこと」「おもったこと」の5つの観点ごとに付箋紙に書き、書く順番を決めた。教師と読み直しをすることにより、促音や長音の誤りを直したり、句読点を付けたりして文章を書くことができた。

【B児の変容】（国語が得意な児童）

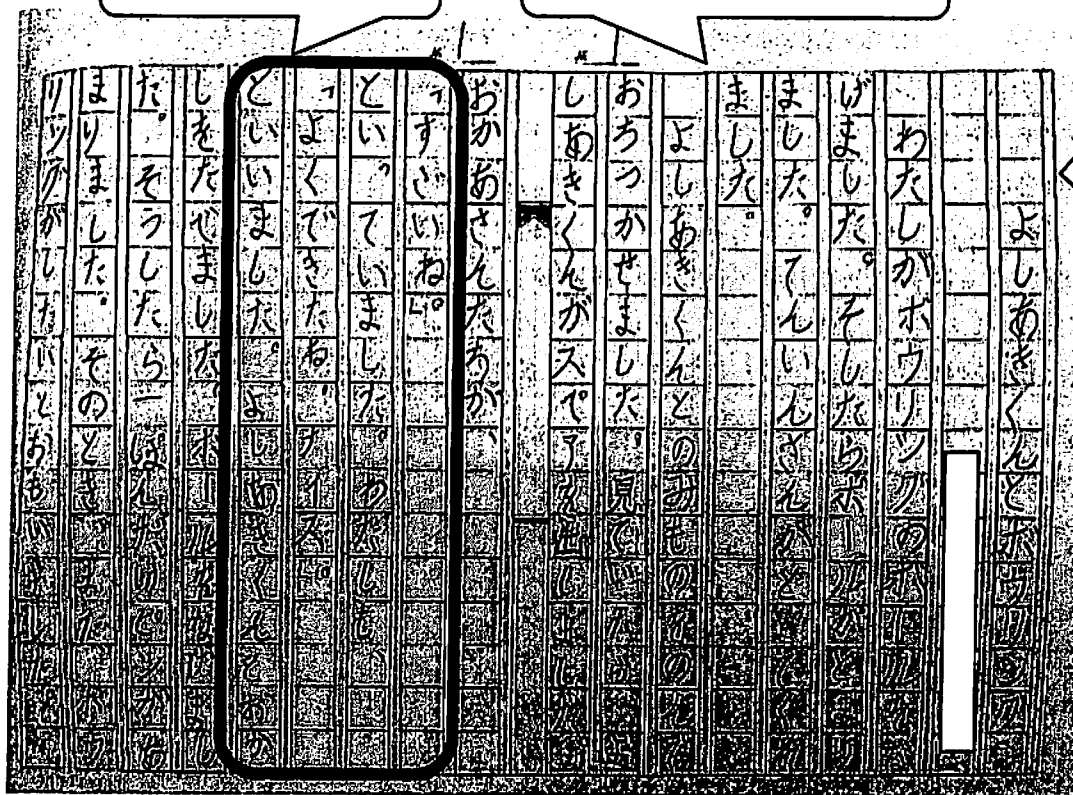


【意識調査】

意識調査では、「文を書く時、書きたいことがすぐに思いつく」と答えていた。普段書いている日記や作文の学習でも意欲的に取り組んでいる。

【単元に入る前の作文】

会話文が入っている。 場面ごとに改行している。



【単元最後に書いた作文】

書く順序を考えたことで、まとまりのある文章を書くことができた。また、会話文を入れたことによって、その時の様子がより伝わる文章になった。

- 1 単元名 「3年3組オリジナル文集を作ろう」
 学習材 強く心にのこっていることを

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、一番伝えたい場面を一つ選んで、それを中心に文章を書く学習であるとともに、三年生で学習した書く学習のまとめとなる単元である。これは、学習指導要領第3学年及び第4学

「B書くこと」の指導事項

- ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
 イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

を受けて設定した。

本教材は、日常生活から題材を選んで書いた文章である。ペットのカメが動かなくなった場面を中心に詳しく説明されている。経験した出来事の中から題材を選ぶという内容は、子供たちにとって取り組みやすいであろう教材である。

そこで本単元では、学校での1年間の生活の中で特に印象に残ったことを見つけ、段落相互の関係を考えながら、中心になる場面をはっきりさせて“3年3組オリジナル文集作り”を行う。文集を見せる相手は、家族ということ伝え、学習の目的を明確にする。学習の過程では、イメージマップを作って伝えたい場面を考えたり、始め・中・終わりの構成を意識した組み立て表を作ったりと展開していく。そして組み立て文をもとに文章を書いていく際には、句読点や会話文の書き方・接続語などを意識しながら指導していく。また、友達との読み合いを通して、新たな考え方や言葉の広がりにもつながるのではないかと考え、本単元を設定した。

(2) 児童の実態 (男子17名, 女子14名, 計31名)

実施日12月20日

<意識調査>

- (1) 作文などを書く時、書きたいことがすぐに思い浮かびますか。
 はい・・・14名(46%) どちらかといえばはい・・・11名(36%)
 どちらかといえばいいえ・・・5名(17%) いいえ・・・1名(1%)
- (2) 文章の構成(始め・中・終わり)を工夫して、わかりやすく文章を書くことができているか。
 はい・・・12名(39%) どちらかといえばはい・・・7名(21%)
 どちらかといえばいいえ・・・8名(27%) いいえ・・・4名(13%)
- (3) 書いた文章を読み返し、目的にあった文章に直すことができますか。
 はい・・・10名(33%) どちらかといえばはい・・・12名(39%)
 どちらかといえばいいえ・・・8名(27%) いいえ・・・1名(1%)

本学級の児童はこれまでに、1年生の時の「見つけたことをしらせよう」や2年生の時に「1年間のできごとをふりかえって」の書く学習活動を行ってきた。また、1年生の「えにつき」や1年生の「つづけてみよう - 日記 -」の学習を通して、日記にも取り組んできている。

児童の実態調査の、「作文などを書く時、書きたいことがすぐに思い浮かびますか。」の問いに対して約18%の児童が思い浮かばないと回答していることがわかる。「文章構成を工夫してわかりやすく文章を書くことができていますか。」の問いで、約40%の児童ができていないと答えている。「書いた文章を読み返し、目的に合った文章に直すことができる。」の問いで、約28%の児童がうまくアドバイスできないと回答している。

(3) 指導観

単元観及び児童の実態から、本単元では、次のような点に重点をおいて指導したいと考えた。

1つ目は、書きたいことを決める時間をしっかりと設けることである。実態アンケートの「書きたいことがすぐに思い浮かびますか。」の問いで約18%の児童が思い浮かばないと答えている。書く題材の発表をすることで、思い浮かばない児童にとって考えを広げる機会となる。また、題材を決定した後、イメージマップを使って具体的な書きたい場面について広げ、児童同士で話し合う。教科書で扱われている文章は、ペットのカメ太という家庭生活での体験の内容である。本学習では、1年間の学校生活の中で印象に残ったことである。家庭生活の内容だと経験を共有することができないが、学校生活だと共通体験になる。つまり、イメージマップを使って広げた場面に関して共通の体験をしているのでアドバイスがしやすいと考える。

2つ目は、文章構成である。実態アンケートの「文章構成を工夫してわかりやすく文章を書くことができていますか。」の問いで、約40%の児童ができていないと答えている。本単元を通して、始め・中・終わりの順序で書くことや時系列に沿った流れで書くことができるように指導していきたい。具体的な指導としては、教師見本を提示することで確認しながら学習を進めるようにしていきたい。また、出来事を中心や様子、そのときの気持ちを交えながら書けるように指導していきたい。

3つ目は、推敲である。実態アンケートの「書いた文章を読み返し、目的に合った文章に直すことができる」の問いで、約28%の児童がうまくアドバイスできないと回答している。本単元の学習の中で、3回の読み合いを行う。読み合いの観点を教師が明確に示すことで、児童はどのポイントを考えて読んで伝えればいいのか理解できると考える。

以上、3つの点を意識しながら学習を展開していきたいと考える。

(4) 仮説との関連

仮説1との関連

書くことを明確にし、学習の見通しをもたせれば、児童が自分の思いや考えを適切に表現することができるであろう。

本学習では、一年間の学校生活の中で印象に残ったことを書き、文集にする学習を行う。書きた

い題材の発表やイメージマップを使って広げた場面についてのグループでの話し合いをもとに書きたい内容を決定することができると思う。

文章構成について教師見本を使って学習することで、始め—中—終わりの文章構成を理解させていく。提示した見本を確認しながら時系列に沿って書かれていたり、出来事を中心や様子、その時の気持ちを交えたりしながら書いていることに気付かせるようにしていく。

上述したような活動を単元計画に組み入れることで、自分の思いや考えを豊かに表現することができると思った。

仮説2との関連（活用）

共有の場を設定したり、振り返りを積み重ねたりすることで、児童の学びを深めることができるであろう。

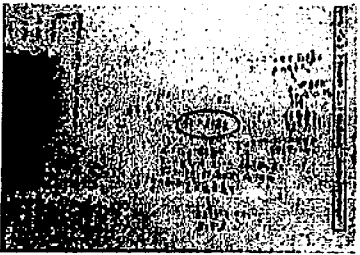
本単元では、イメージマップや文章構成・完成した文を見合うグループ交流を三回設定する。グループ交流は、1グループ3～4人の構成を基本とする。お互いの内容を確認する三回の学習では、見合う観点を明確にもたせることで、共有の目的をはっきりとさせる。（観点は指導計画に記載）また、毎時間確実に学習の目的を捉えさせることで、学習の最後に本時の振り返りをしっかりと行うことができるのではないかと考える。


このようなグループ交流を取り入れたり、学習の振り返りを行ったりすることで、多様なものの見方や考え方が身に付き、学びを深めることができると思う。

3 単元の目標

- クラスの文集作りの内容を捉え、一年間を振り返り文章を書くことに興味関心を示そうとする。
(学びへ向かう力, 人間性)
- 句読点を適切に打ち、段落の始め、会話の部分などの必要な個所は行を改めることができる。
(知識及び技能)
- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
(思考・判断・表現力等)
- 書いた文章を発表し合い、一番伝えたいことが読み手に明確に伝わっているかどうか、考えや意見を伝え合うことができる。
(思考・判断・表現力等)

4 指導計画（8時間扱い）

過程	時配	学習内容と学習活動	主な指導（○）・評価規準（◎）
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方を読んで学習のめあてをつかみ、見通しをもつ。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・教師見本を見せる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>3年3組オリジナル文集を作ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読んで具体的な見通しをもつ。 	<p>○教師見本を見せることで、学習の見通しをよリモてるようにする。</p> <p>○完成した文集は家の人に読んでもらうために作成するという目的を伝える。</p> <p>◎クラスの文集作りの内容を捉え、一年間を振り返って文章を書くことに意欲的に取り組もうとしている。(学・人等)【発言・観察】</p>
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>文集に書く内容を考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一年間の生活の中で、特に思い出に残っていることを発表し、書く題材について考える。 	<p>○友達の見解から書きたい内容を決めてもよいことを伝える。</p> <p>◎文集を書くための題材を考え、意欲的に発表したり、考えたりしようとしている。(学・人等)【発言・観察】</p>
第二次	1 本時 3/8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>イメージマップを作って、一番伝えたい場面を決めよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップを書く。 ・書いたイメージマップをもとに、一番伝えたい場面を決定する。 ・決まった書く場面について友達と話し合う。 <p>(観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心となる場面は入っているか。 ・その時の様子や気持ちが伝わるか。 ・中心となる場面に付け足しはないか。 	<p>○苦手な児童には、個別に支援し、出来事を想起させながら書けるようにする。</p> <p>◎自分が一番伝えたい題材について、イメージマップをもとに書きたい事柄や中心になる場面を考えている。(思・判・表等)【発言・ノート】</p>

1	<p>組み立て表を使って、文章全体の組み立てを考えよう。</p> <p>・組み立て表に書く。</p> 	<p>◎中心場面が明確になるように、文章全体の構成を考えながら組み立て表を書いている。</p> <p>(思・判・表等)【ワークシート】</p>
1	<p>作った組み立て表について話し合おう。</p> <p>(観点)</p> <p>・中心となる場面は入っているか。</p> <p>・その時の様子や気持ちが伝わるか。</p> <p>・中心となる場面に付け足しはないか。</p>	<p>◎相手の伝えたいことを理解し、考えや意見を伝え合うことができている。</p> <p>(思・判・表等)【ワークシート】</p>
1	<p>組み立て表をもとに、文章を書こう。</p> <p>・組み立て表をもとに本文を書く。</p>	<p>◎段落相互の関係などに注意して、中心場面を決めて様子が伝わるように書いている。</p> <p>(思・判・表等)【原稿用紙】</p>
第三次	<p>書いた文集を読み合って、直しをしよう。</p> <p>・書いた文章を読み合う。</p> <p>(観点)</p> <p>中心になる場面をはっきり書いているか。</p> <p>大切な会話を落とさず書いているか。</p> <p>文章の表現が適切でないところはないか。</p> <p>誤字脱字はないか。</p>	<p>◎推敲の観点に気を付けながら友達の文章を読み、話し合いをしている。</p> <p>(知・技)【発言・観察】</p>

1	話し合ったことを生かし、修正し文章を完成させよう。	◎推敲の観点を理解し、話し合ったことをもとに書き直したり書き足したりしている。 (知・技)【原稿用紙】
---	---------------------------	--

5 本時の指導 (3 / 8)

(1) 目標

○意欲的にイメージマップを書こうとする。

(学びへ向かう力, 人間性等)

○書いたイメージマップを見合い, 考えや意見を伝え合うことができる。

(思考・判断・表現力等)

(2) 展開

時配	主な学習活動	指導・支援 (○) 評価 (◎) 仮説との関連 (※)	資料
2	1 前時の確認をして, 本時の学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">イメージマップを作って, 一番伝えたい場面を決めよう。</div>		
10	2 イメージマップを書く。 (教師見本を提示する。)	○苦手な児童には, 個別に支援し, 出来事を想起させながら書けるようにする。 ◎意欲的にイメージマップを書いているか。 (学, 人等)【観察・ノート】	イ メ ー ジ マ ッ プ 見 本
5	3 書いたイメージマップをもとに, 一番伝えたい場面を決定する。 ・運動会のダンスの練習を頑張って当日上手にできたこと ・校外学習のありのみコースの池に落ちた思い出 ・マラソン大会で試走よりも順位が下がって悔しかったこと	○考えを広げたイメージマップの中で, 特に文集に書きたい場面を丸で囲み, 友達に伝えられるように発表の準備をする。	
15	4 決まった書く場面について友達と話し合う。 (観点) ・中心となる場面は入っているか。 ・その時の様子や気持ちが伝わるか。 ・中心となる場面に付け足しはないか。	○グループは三人構成を基本とし, 異質グループを組み, 一人一人のイメージマップを見合い, 意見を伝え合えるようにする。 ○意味のある話し合いにするために, 観点をしっかりと理解させた上で話し合いに取り組むように指導する。	

	<p>5 5 話し合いを通して、アドバイスしてもらったことや感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスのどの部分が難しかったかを具体的に書いた方がいいと教えてもらいました。 ・ありのみコースの池に落ちた時の気持ちを入れた方がいいと教えてもらいました。 <p>5 6 振り返りをする。</p> <p>3 7 次時の学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習では、組み立て表を書くことを伝える。 	<p>○下位の児童は、一つの観点到絞って伝えることでもよいことを伝える。</p> <p>※共有の目的を理解し観点を明確におさえることで深い学びにつながるだろう。(仮説2)</p> <p>◎書いたイメージマップを見合い、考えや意見を伝え合うことができる。(思考・判断・表現力等)【観察】</p> <p>○意見やアドバイスをしてもらったこと全てを取り入れるのは難しいので、取捨選択していいことを伝える。</p> <p>○本時の自分の学習を振り返り、段階評価をする。</p>	<p>振り返りカード</p>
--	---	--	----------------

(3) 板書計画

強く心にのこっていることを

イメージマップを作って、一番伝えたい場面を決めよう。

イメージマップ教師見本

(観点)

- ・中心となる場面は入っているか。
- ・その時の様子や気持ちや伝わるか。
- ・中心となる場面に付け足しはないか。

(アドバイスや感想)

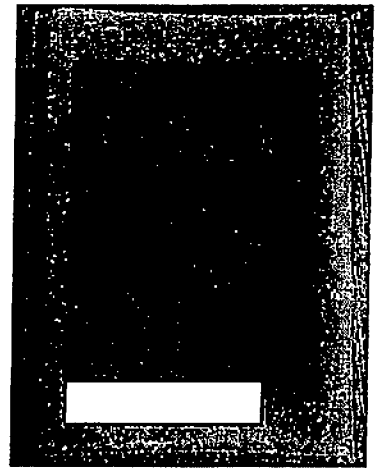
活動の実践

書くことを明確にする<仮説1>

○目的・相手意識をもたせる

(～何のために、誰に)

始めに学校での一年間の行事の中で特に印象に残ったことについて話し合いをした。そこで本時では、1年間の行事の中で特に思い出に残ったことを文章にし、学級全員が書いた作文を1つにする“3年3組オリジナル文集作り”を行うということを児童に伝えた。また、学習のゴールとして文集を見せる相手は、家族ということを示し、これから学習していくという意識付けをした。



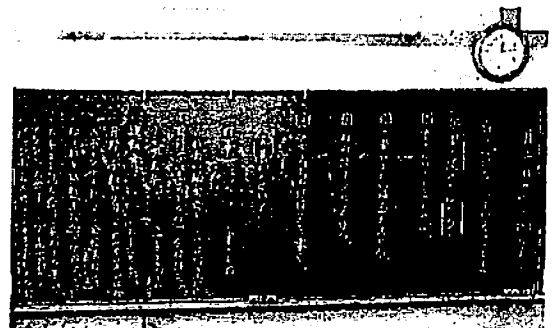
○書きたいことを決定する

学習の始めに行った1年間の行事の中で、特に印象に残ったことの話合いをもとに、書きたいテーマを決定した。決めるにあたって、出来事が2つ以上あり書くことができる題材や自分の気持ちを想起しやすい題材ということで児童に決定するように支援した。また、低位の児童に考えられるように運動会やマラソン大会・校外学習などはどんな出来事があったかを子供たちに発言させて、思い出せるようにした。

学習の見通しをもたせる<仮説1>

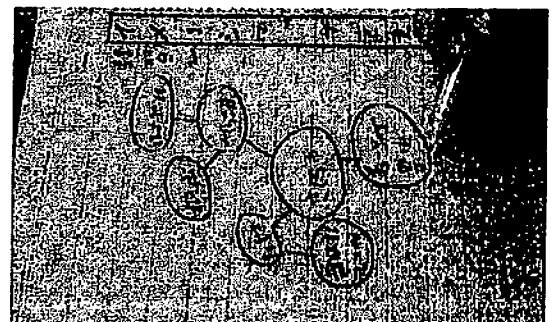
○学習計画の見通しをもたせる

上述したように、学習の始めに行事について想起させ、文集を書くという学習のゴールを伝えた。そして単元の見通しをもたせるために、学習の流れについておさえた。また、いつでも確認ができるように教室掲示を作成し、次時に行う学習内容を把握できるようにした。



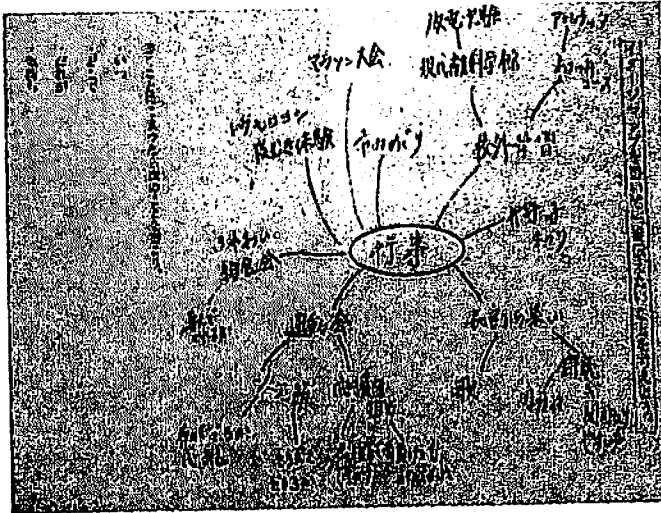
○共通の題材で書く

まずは、学級全体で共に経験したことの中から、同じテーマでイメージマップを書く練習をした。個人で書かせた後に、イメージマップを持ち寄り、話し合わせることで内容を膨らませることができた。



○教師見本を提示する

学習で組み立て表や作文を書かせる前に、教師見本を提示した。提示することで、「始め—中—終わり」の文章構成になることを押さえたり、段落の使い方を教えたりした。また、組み立て表をもとに作文にする学習では、教師見本を見ながら組み立て表のどこが本文に対応しているかを確認しながら学習を進めていった。



【イメージマップ教師見本】

【組み立て表教師見本】

【作文教師見本】

共有の場を設定する <仮説2>

○書いた内容を見合う

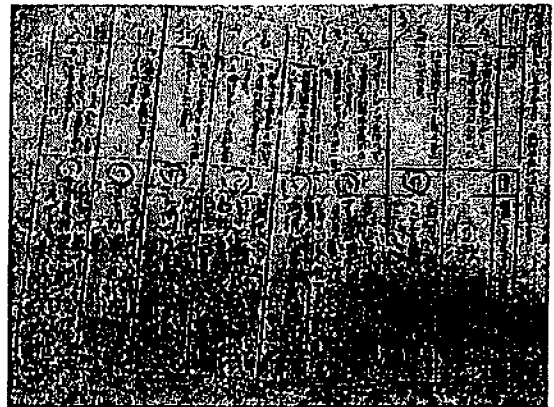
本単元では、イメージマップ・組み立て表・完成した文章を見合うグループ交流の時間を3回設けた。

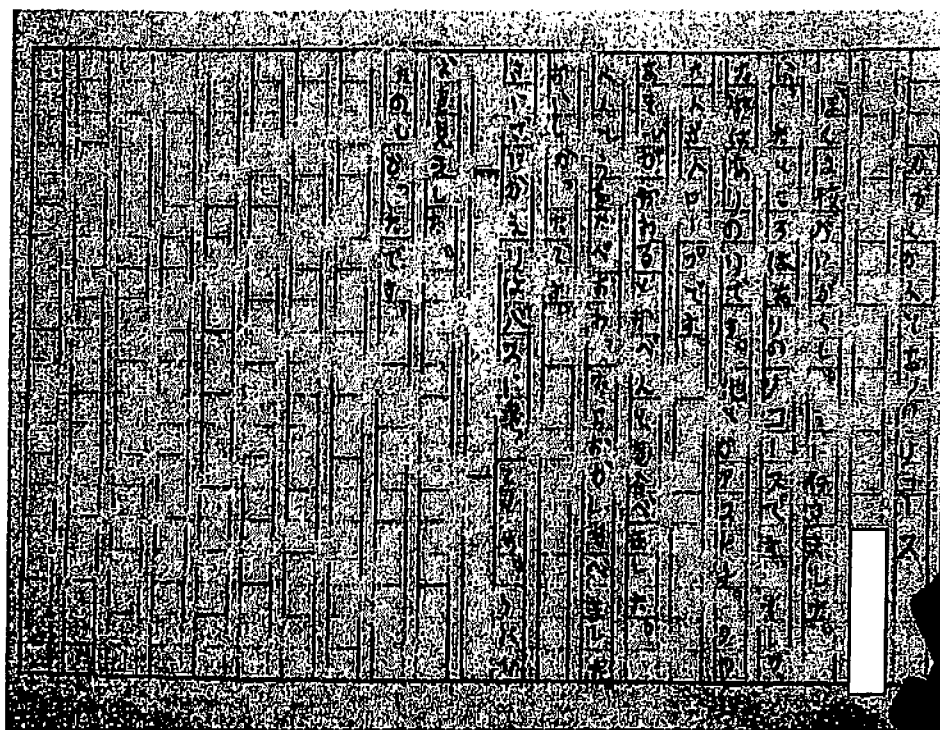
グループ交流は、テーマごとに1グループ3～4人の異質グループ構成を基本とし、書いた内容を互いに見せ合い、教師が提示した視点の確認や付け足しをするという目的で行った。グループごとの活動で、低位の子は高位の児童に付け足しを入れたり、気持ちを入れたりすることをアドバイスされていた。



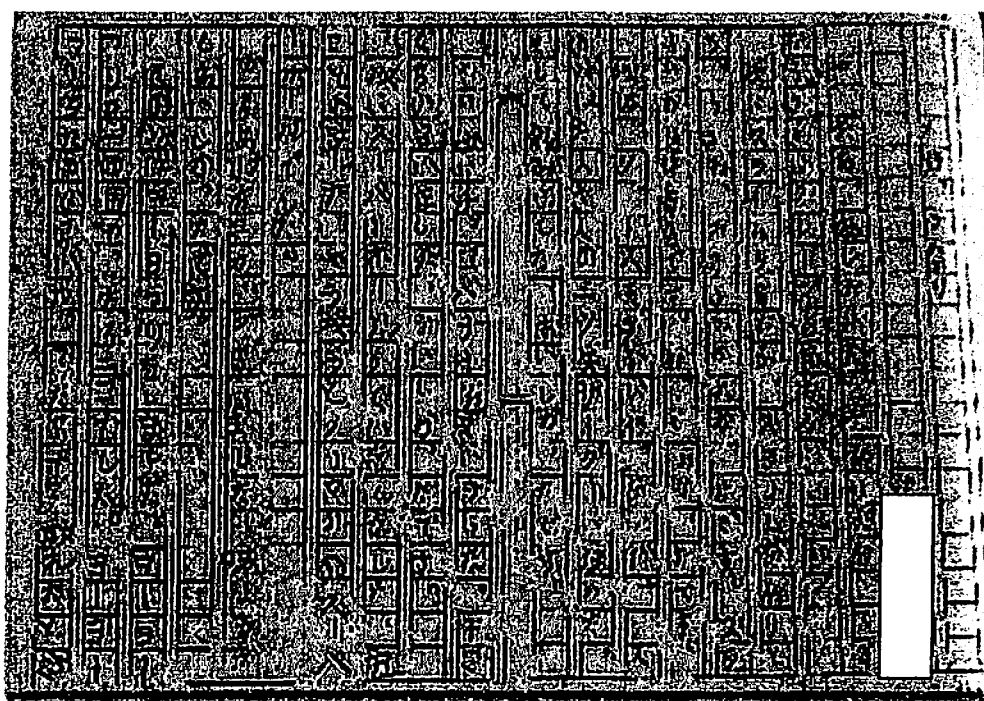
○学習の振り返りを行う

学習の最後に本時の振り返りを行った。内容としては、本時の学習の始めに意識した目標を達成できたかとできたこと・頑張りたいことを書く欄を設けた。それを書くことによって次時への学習への目標・意欲をもつことへつながった。





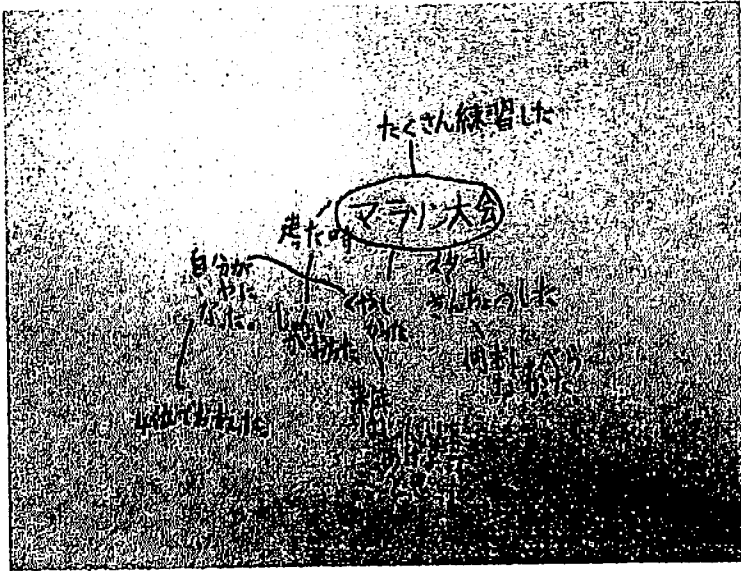
【単元に入る前の作文】



【単元での作文】

話を広げることが少しできるようになった。内容の羅列で書いた内容になってしまっているが、出来事を広げることができたことに本人は喜びを感じていた。また、段落の意識も付けることができるようになってきた。

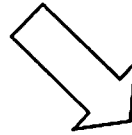
【B児の変容】（国語が得意な児童について）



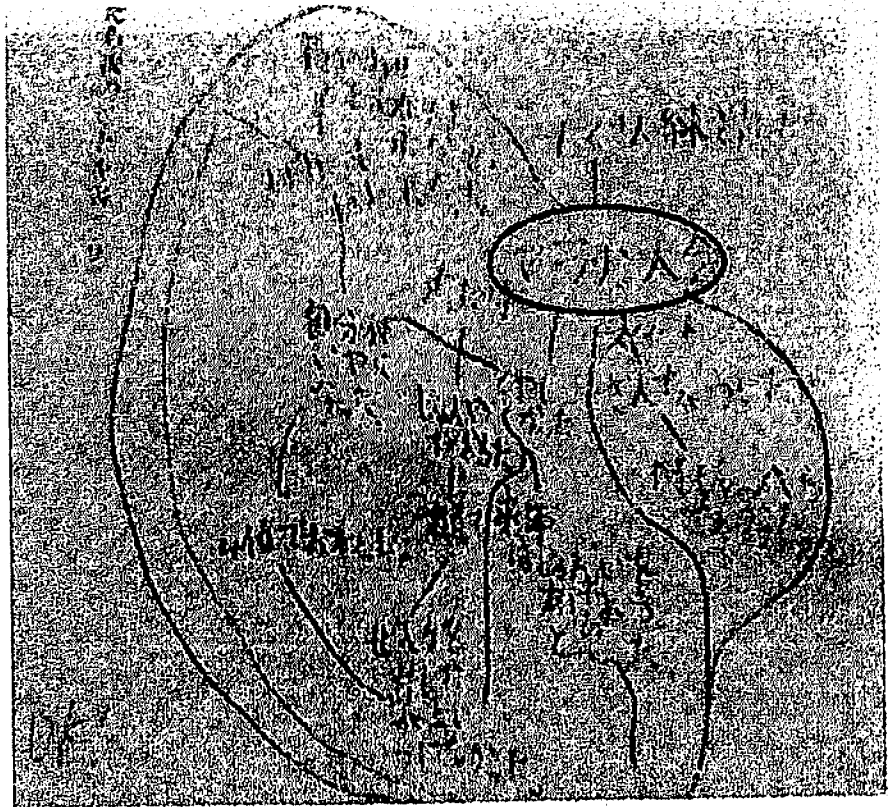
【実態調査】

意識調査では、「作文などを書く時、書きたいことがすぐに思い浮かぶ。」と答えており、普段の学習や継続的に行っている日記でもすらすら書くことができる。

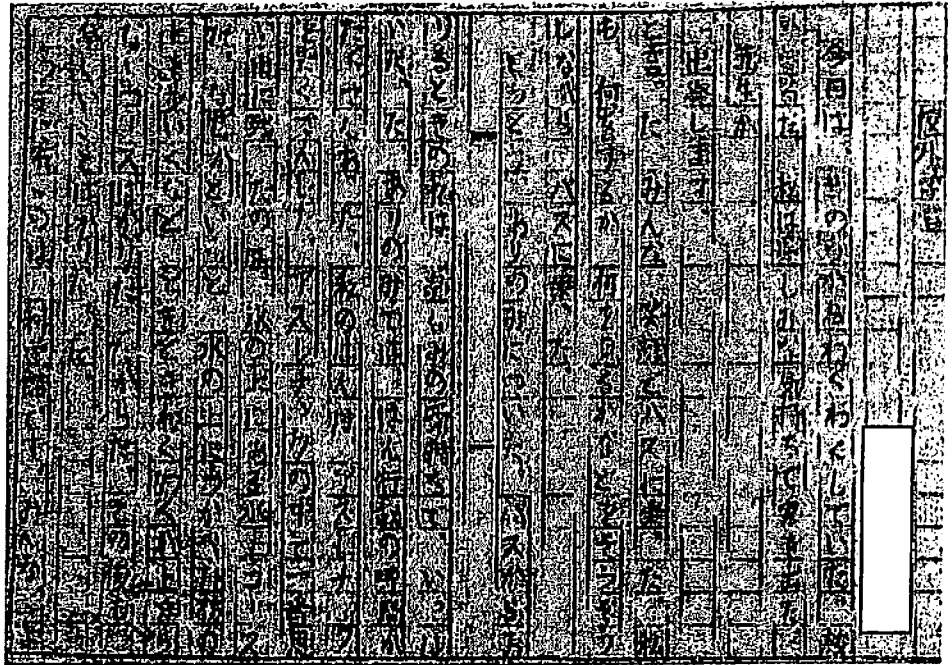
【一人で書いたイメージマップ】



グループでの共有を通して、自分がいやになったことから土日も走るようになったことを付け加えた。より詳しく内容を書くことができた。



【共有した後のイメージマップ】



【単元に入る作文】



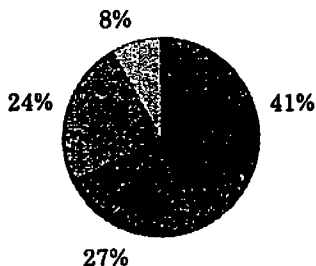
【単元での作文】

文章を書くことがとても得意であるが、学習を通して緊張の様子や胸の高鳴りなどの表現が入り、臨場感のある文に仕上げられるようになった。

【事前・事後アンケート結果】

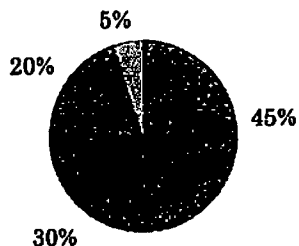
作文などを書く時、書きたいことがすぐに思い浮かびますか。(11月)

- はい
- どちらかといえばはい
- どちらかといえばいいえ
- いいえ



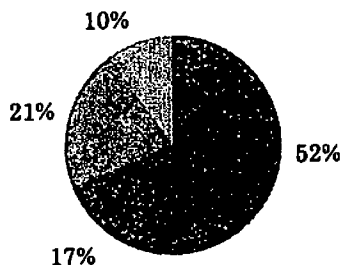
作文などを書く時、書きたいことがすぐに思い浮かびますか。(3月)

- はい
- どちらかといえばはい
- どちらかといえばいいえ
- いいえ



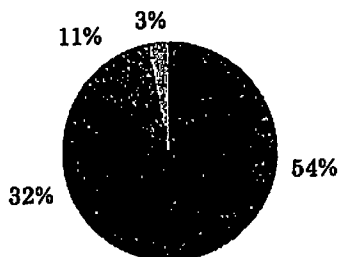
文章の構成(始め-中-終わり)を工夫して、わかりやすく文章を書くことができますか。(11月)

- はい
- どちらかといえばはい
- どちらかといえばいいえ
- いいえ



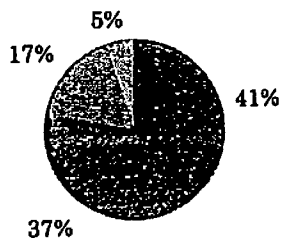
文章の構成(始め-中-終わり)を工夫して、わかりやすく文章を書くことができますか。(3月)

- はい
- どちらかといえばはい
- どちらかといえばいいえ
- いいえ



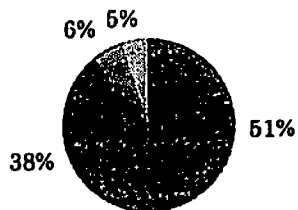
書いた文章を読み返し、目的にあった文章に直すことができますか。(11月)

- はい
- どちらかといえばはい
- どちらかといえばいいえ
- いいえ



書いた文章を読み返し、目的にあった文章に直すことができますか。(3月)

- はい
- どちらかといえばはい
- どちらかといえばいいえ
- いいえ



考察

- ・書きたいことがすぐに思い浮かぶようになったという児童が増えた。書きたいことを決定するためにイメージマップを用いて、共有したことが手立てとして有効であったと考える。一方で、1人でテーマを決定することが困難な児童が約2割いることが課題として残った。
- ・文章構成を意識して書ける児童が全体の4分の3以上を占めている。教材文や教師見本で文の組み立て方を理解したことで、構成を意識しながら文章を書くことができたと考える。
- ・書いた文章を読み返し、目的に合った文章に直すことができた児童が増えたことが分かる。共有の観点を明確にもたせたことで、的確にアドバイスすることができたと考える。

成果と課題

〈仮説1〉

成果

- ・単元の始めに何のために（目的）、誰に（相手）書くのかを確認したことで、単元を通して目的意識を明確にもって取り組むことができた。
- ・教師見本を作成し提示したことや学習計画を掲示したことで、目指す単元のゴールとそれまでの過程を具体的にイメージさせることができた。
- ・教材文や教師見本を使って、文章の構成や書き方を押さえたことで、作文の基本的な書き方を知ることができた。

課題

- ・文章を書く能力に個人差が多くあり、個に合った支援がもっと必要である。
- ・伝えたいことを言葉に表すためには、語彙力を増やすことが必要であった。

〈仮説2〉

成果

- ・書きたいことを決める時に、全体で題材を見つけ合う話し合いをしたことで、自分では思いつかなかった児童も友達の意見を参考にして決めることができた。
- ・構成の場面で共有の場を設定したことで、イメージマップでの材料が増えたり、書く順番を適切に入れ替えたり、自分では気付かなかったことに気付き、学びを深めることができ、次の学習につなげることができた。
- ・共有をする時に、話し合う観点を具体的に示したことで、児童がどんな意見を言えばよいのかを理解し、積極的に活動することができた。
- ・振り返りでは、授業の終わりにカードを用いて自己評価ができ、達成感や次時への課題を見い出すことができた。

課題

- ・共有をする時に友達の文章を見てアドバイスをすることが難しい児童には、教師が寄り添って考えたり、観点を絞った意見を伝えたりできるようにすることが必要だった。